



WORLD TSUNAMI
AWARENESS DAY
5 NOVEMBER

熊本“きずな”宣言

2015年の国連総会において、「世界津波の日」が制定されたことを契機として、翌2016年から開催されている「世界津波の日」高校生サミット。2024年、私たち44か国・地域の高校生は、熊本地震や集中豪雨などの多くの災害を経験してきた熊本に集い、防災・減災・復興について学びました。

私たちは、議論の中で、世界各地で直面するハザードやそれらへの対策には様々なアプローチがあることを学びました。そして互いの意見を尊重し、異なる視点を共有し合うことで、より良いアイデアが生まれ、「きずな」の大切さも学びました。

私たちは、このサミットを通じて得た成果を、参加した生徒一人ひとりが実践していくことはもちろん、世界中に発信し、未来へ引き継いでいくことを決意します。

- 私たちは、災害リスクを評価し、命を守るために、
 - ・できるだけ多くの人々が自然ハザードに関する情報を利用できるようにすることで、防災意識の向上を図ります。
 - ・地方及び中央の行政機関、そして様々な組織団体と連携して、地域社会の自然ハザードへの備えを支援する体制を構築します。
 - ・学校教育だけでなくゲームやアプリなどの科学技術も活用して青少年への防災教育を充実させ、災害のリスクと災害時に取るべき行動について理解の向上を図ります。
 - ・このサミットのような国際交流を通じて災害について議論し、そこで得られた意見や解決策を共有する機会をつくります。
- 私たちは、自然と共生しながら、災害の被害を回避・軽減するために、
 - ・緑や自然を多く導入するなど環境に配慮した都市づくりに投資し、自然を活用した解決策を取り入れます。
 - ・避難計画を策定し、スタディツアーを企画するなど教育活動を推進します。
 - ・災害リスクに耐える強靱なインフラを整備します。
- 私たちは、災害が起こってしまっても、将来の発展に繋がるような創造的復興を成し遂げるために、
 - ・住民の声、信念、価値観を第一に優先し、災害が起きた地域の住民の文化的一体性、主体性、持続可能性を維持します。
 - ・人々の状況や環境を考慮し、様々な言語やプラットフォームを使用して、復興に関連する情報にアクセスできるようにします。
 - ・メンタルヘルスの重要性に対する意識を高めることで、社会的偏見を減らし、地域の連帯感を高めます。

私たちは、自然の恵みに感謝するとともにその脅威を正しく理解し、今回「きずな」を深めた仲間とともに、防災リーダーとして、防災・減災・復興の取組みを進めていくことを宣言します。

2024年10月24日



「世界津波の日」2024高校生サミットin熊本